

【演習】

オリエンテーション

—情報の収集とチームプレイの基本—

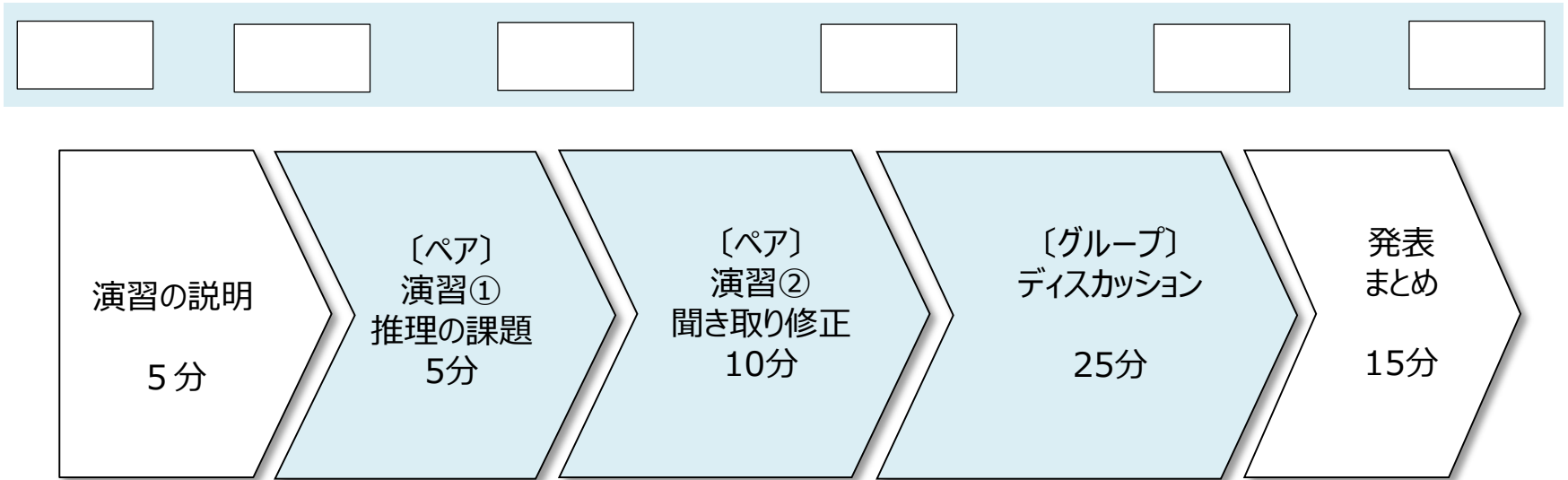
演習のねらい

この時間は、グループ活動が円滑に進むよう、簡単な課題に取り組み、意見交換がしやすいチーム作りを行なうことを目的とします。合わせて、今後実施する演習の進め方について、体験を通し、予行練習を行います。

【ポイント】

- ① チームの各メンバーの人柄をお互いに理解する
- ② チーム内で意見交換がしやすい雰囲気作りを行う
- ③ 演習の基本的な進め方を、体験を通して学ぶ

演習の流れ



演習① : 視覚的情報だけでペアの相手の人物像を推理する

演習② : 聞き取りにより、演習①の情報を修正する

演習① | 推理の課題

- ペアを作ります

名札の番号を確認して下さい

①と② ③と④ ⑤と⑥ ⑦と⑦

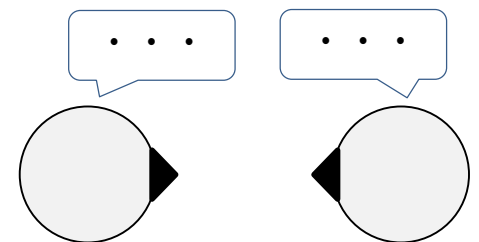
各グループの3つのペアを作して下さい

- ペア同士が正対するように座して下さい

- 合図の後、5分間、ペアを組んだ相手が「どんな人物であるか」を想像して下さい。

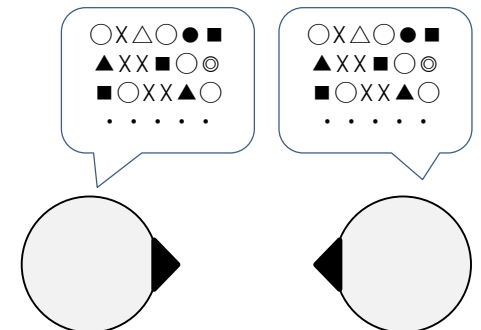
- 一言もしゃべらず、視覚的な手がかり（観察）だけで想像して下さい。

- なお、その印象については、前のページにあるオリエンテーションシートの、「第一印象」の欄に書き込んで下さい



演習② | 聞き取り修正

- 演習①の推理が合っていたかどうか、ペア同士でお互いに質問しながら確認します
- 最初に奇数番号（①③⑤）の人が偶数番号（②④⑥）の人に質問をし、答え合わせをします。時間は5分間です
- 次に、偶数番号の人が奇数番号の人に質問をし、答え合わせをします。時間は5分間です
- 質問で聞き取った情報は、簡潔にシートの「聞き取り」欄に記載し、その人の紹介ができるよう準備して下さい



ディスカッション

- グループ単位でディスカッションを行います
- 「司会」は①、「記録」②は、「発表者」③が行います。
- ①から順番に、ペアの相手を紹介して下さい（他己紹介）。制限時間は2分です。司会者はタイムキープしてください
- すべてのメンバーの他己紹介が終わったら、下の3つのテーマにそってディスカッションして下さい。司会者はしっかりと3つのテーマすべての意見交換ができるよう進行に気を配って下さい。「記録」はディスカッションの内容を要約筆記し、「発表者」は発表できる準備をしてください。

テーマ

1. 第一印象で容易に想像できた項目と、難しかった項目の特徴
2. 第一印象が難しい項目を当てた人の着眼点は
3. 第一印象が容易な項目を外した人の着眼点は

発表

- 2～3のグループに発表してもらいます。

発表する内容

1. 第一印象で容易に想像できた項目と、難しかった項目の特徴
2. 第一印象が難しい項目を当てた人の着眼点は
3. 第一印象が容易な項目を外した人の着眼点は

まとめ① | 演習の進め方

- この研修における演習は、原則この流れで進めます
演習の説明 → 演習（何らかの課題）実施 →
グループディスカッション → 発表とまとめ
- グループで演習を進めるにあたっての注意点は、
 - ① 時間厳守
 - ② 演習の説明で内容をしっかり理解する
 - ③ 役割を明確に（司会、記録、発表等）
 - ④ グループディスカッションは、テーマに沿って
- グループディスカッションは積極的に
 - ① 司会者はタイムキープしながら、グループ全員の意見を引き出すよう努力して下さい
 - ② ディスカッションは、テキストに記された「テーマ」についてグループ内で意見交換するものです（自由な討論ではありません）
 - ③ 記録者は要約筆記を行い、発表者にディスカッションの要旨を的確に伝えて下さい

まとめ② | 情報の収集

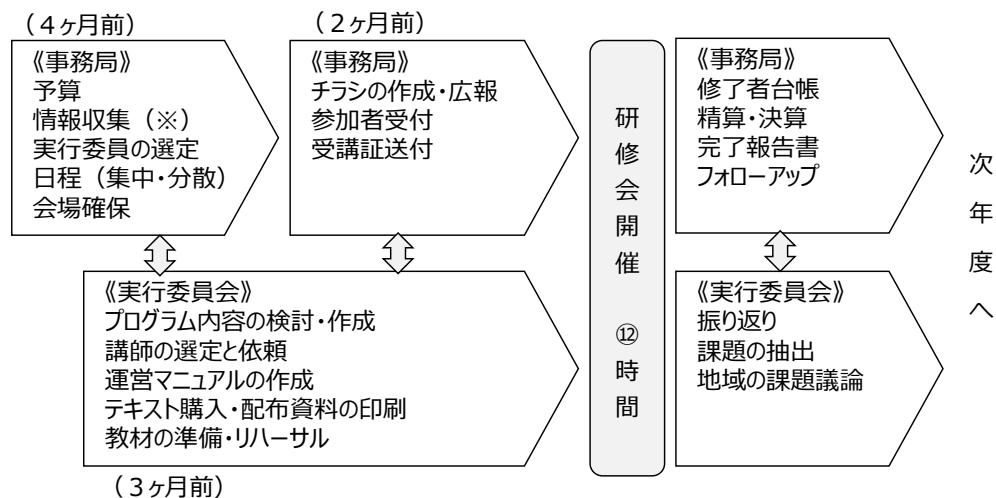
- 私たちは、視覚的な手がかり（容姿・身なり・持ち物・動作等）だけでも、これまでの人生経験等を参考に、それなりの情報収集と解釈を行っている。つまり、日常的にアセスメントしています。
- アセスメントは、何らかの経験や知識を元に、仮説を立て、事実としての（客観的な）情報を整理・解釈する過程でもあることを、短い時間の演習で実感してもらいました。
- しかし、わずかな、偏った情報を元にしたアセスメントには、思い込みによる間違った解釈がたくさんあることも経験出来たと思います。
- お互い、聞き取りを行うことで、誤りを修正できたと思います。
- 経験が少なく、専門的な勉強をされてこなかった人にとって、強度行動障害のある人の日常的な振る舞いについて、誤った解釈をたくさんしてしまいます。視覚的手がかりだけでその人の人柄すべてを想像するようなものです。
- 強度行動障害のある人の日常的な振る舞いには、その障害特性に何らかの原因があり、そして周囲の環境づくりの失敗があるのです。演習の聞き取りで誤りを修正したように、この研修で、強度行動障害のある人の日常的な振る舞いに関する、このような背景について学んで下さい。

指導者研修の目的 |

- 指導者研修は、都道府県が地域生活支援事業で実施する「強度行動障害支援者養成研修」の企画・開催・運営を担う人を養成するための研修です。
- 指導者研修は、「強度行動障害支援者養成研修」の受講者（経験年数1年～3年の従事者）を想定した内容となっています。実践経験豊富なベテラン職員向けの、より専門的な研修ではありません。
- 都道府県に戻って、「強度行動障害支援者養成研修」を円滑に進めるための情報・知識を伝えることが、指導者研修の目的です。
- 「強度行動障害支援者養成研修」を受講する方の中には、行動障害がある方や重度知的障害、自閉症の方を見たことがない人もいます。そうした受講者への講義や演習をイメージしながら、これからのプログラムを受講して下さい。

都道府県研修の開催に向けて |

- 都道府県研修は、入所、通所、居宅、相談等、障害福祉サービスに携わるあらゆる職員を対象に、今後、従事者として身に付けるべく「基礎的な知識」と「初歩的な支援計画の立案方法」を学ぶ場です。
- 研修開催には、様々な準備が必要になります。



※ 他の都道府県の状況や運営に関する様々な問い合わせはのぞみの園サポートデスクへ

- 黄色ファイルの資料に「研修の運営の手引き」が入れてあります。また、不明な点などあれば、のぞみの園サポートデスク（027-320-1445）までご連絡下さい。